

プログラミング体験ゲーム ～アルゴリズムに挑戦！～

〈烟中公民館〉

- | | |
|------------|----------------------------------|
| ○開 設 の 趣 旨 | ＰＣのプログラミングをゲームで学ぶ。 |
| ○期 間 | 令和２年１２月５日（土） |
| ○時 間 | 午前１０時～正午（計２時間） |
| ○対 象 ・ 定 員 | 市内在住の小学４年生から６年生・１２人 |
| ○参 加 者 | １２人 |
| ○講 師 | 元（一社）電子情報技術産業協会 大山 裕 |
| ○事 業 内 容 | ＰＣを使ったアルゴリズム体験ゲーム「アルゴロジック」に挑戦する。 |

本来は、夏休み講座の予定で企画したものだが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が延期となった。

次に、プログラミング入門、自動販売機ゲームというものを行った。正しい順番でジュースを買うことができた場合、できない場合はどうなるのかを確かめるゲームである。できない場合にはU F Oやおじさんが登場し、子ども達は楽しそうだった。

この講座をきっかけに、またアルゴリズムをチャレンジしてもらえればと思う。

子ども電気教室 ～レモン電池を作ろう～

〈畑中公民館〉

- 開 設 の 趣 旨 電気の基礎知識と安全について、実験を通じて電気エネルギーの発生メカニズムなどを学ぶ。
- 期 間 令和2年11月7日（土）
- 時 間 午前10時～正午 （計2時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住の小学3年生から6年生・15人
- 参 加 者 13人
- 講 師 （一財）関東電気保安協会 埼玉事業本部 飯塚 邦彦
- 事 業 内 容 電気の安全と省エネルギーについて解説後、レモン電池を作り、電気エネルギーの発生メカニズムと電気の性質を知る。

○ま と め

小学校3～6年生に、電気について身近に理解してもらうことを目的に、関東電気保安協会による「レモン電池を作ろう」という講座を開催した。

各自持参してもらった1センチの厚さのレモン4枚を、亜鉛板と銅板の間に交互に挟み、輪ゴムでまとめて固定させる。（2種類の金属に挟まれたレモンが電解液の役割を果たし、化学反応が起きて電気が発生。これがレモン電池となる。）ここにLED電球をつなげて、点灯するかどうか確認していた。うまく点灯した子からは次々に歓声が上がったが、中々点灯しなかった子は、講師に重ね方の間違いなどを直してもらい、全員点灯させることが出来た。

この他に、DVDアニメによる、家庭での電気製品の安全な使い方や省エネ方法の紹介、さらに、実験装置を使って「ショート」や「過電流」によって電線が発熱、発煙する様子も再現され、その火花や音、煙の臭いなどに驚いている様子だった。電気は生活に欠かせない便利なものである一方で、危険を伴うものであることを分かりやすく学ぶことができた。



「日本事物誌」を読む ～イギリス人から見た明治日本～

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開設の趣旨 明治23年に発行された日本に関する小事典を学ぶ。
- 期 間 令和2年11月17日・24日、12月8日・15日の火曜日（計4回）
- 時 間 午前10時～正午（計8時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・30人
- 参加者 27人 参加延べ人数94人
- 講師 学習院大学講師 林 東洋
- 事業内容

回	月 日	内 容
1	11月17日（火）	明治時代に東京帝国大学で教鞭をとった「お雇い外国人」であるB. Hチェンバレンの目を通して当時の日本の姿を4回に渡り深く読み込み、文脈の解説と解釈、その考察を行う。
2	11月24日（火）	
3	12月 8日（火）	
4	12月15日（火）	

○ま と め

今回の講座は、昨年受講者にアンケートを取り、一番希望者が多かった「日本事物誌」が選ばれ開催が決定した。「日本事物誌」には、幕末から明治初期にかけての日本という国の様子が事細かに綴られている。中を開くと「算盤（Abacus）」から「動物学（Zoology）」までをアルファベット順に配列し、言葉巧みに事物百般を説く小事典となっている。その中から講師が選抜した26の話进行解説してくれた。

著書独自の視点がスパイスとなり、読み物としての魅力を増大させているように思う。私達日本人が何気なく普通に過ごしている文化・風習など、外国人の目から見ると不思議なことが多いようだ。

今回、新型コロナウイルス感染症の影響で来られなかった方や、また違う話しも聴いてみたいという意見もあり、来年も「日本事物誌」を読むことになりそうだ。

MOMAS コレクションで楽しむ近現代美術

〈 畑 中 公 民 館 〉

○開 設 の 趣 旨 近代美術を中心に歴史を交え、絵画を楽しむコツを紹介する。

○期 間 令和3年1月27日（水）

○時 間 午前10時～11時30分（計1.5時間）

○対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・20人

○参 加 者 8人

○講 師 埼玉県立近代美術館 佐藤 あゆか

○事 業 内 容 ・ 作品鑑賞のポイント
 ・ コレクション展 4つの水紋でみる美術の世界
 ・ MOMAS で出会える現代アート

○ま と め

国の緊急事態宣言により県立近代美術館が休館中であるため、一部内容が変更となった。今回は、新型コロナウイルス感染症の感染対策のため、グループごとの意見交換は行わず、質問も控えてもらい、講師がプロジェクターで色々な作品（絵画、椅子、彫刻等）の紹介をする内容となった。始めのうちは皆さん静かに受講していたが、絵に集中していくうちに自然に質問が出てしまうこともあった。それだけ熱心に講義を聴いてもらったという意味では良かった。

来年度は、現地で美術鑑賞をしてもらい、感じたことを意見交換できるような講座を開催していきたい。



中国の歴史を知ろう

〈 畑 中 公 民 館 〉

○開 設 の 趣 旨 尖閣問題、南京事件についての日中の異なる解釈、台湾の17世紀から民主化までの歴史を学ぶ。

○期 間 令和3年2月17日～3月10日までの毎週水曜日
(計4回)

○時 間 午前10時～正午 (計8時間)

○対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・24人

○参 加 者 24人 参加延べ人数91人

○講 師 元明治学院大学教授 横山 宏章

○事 業 内 容



回	月 日	内 容
1	2月17日(水)	「尖閣論争」日中の歴史認識と領有権問題
2	2月24日(水)	「南京虐殺」論争
3	3月 3日(水)	外来政権に支配されて来た(美麗島)の歴史
4	3月10日(水)	台湾の変貌 独裁から民主国家へ

○ま と め

人気の講座で、今年で3回目の開催となった。当初の予定は4月であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で時期を延期し、募集人員を減らして、この時期に開催することができた。

第1回と第2回は、日中間の難しい問題ではあるが、政治性を排除して双方の異なる解釈を紹介し、食い違いがなぜ起こるかを考える講義であった。「過去の歴史を学ぶことは大事。しかしそれは現在の関係に影響を及ぼすことなく、過去を正しく相対化し、新しい関係を築いてゆくべきだ。」という中国の大学教授の話が紹介され、印象に残った。

第3回と第4回は、もう一つの中国、台湾の歴史を知ろうという内容で、17世紀から現代までの歴史と、民主化への歩みを学んだ。隣の国であり、今は観光で訪れる事も多い台湾であるが、1987年まで、38年間という世界一長い戒厳令が施かれていたこと、また、50年間も日本の統治下にあったという過去がありながら、なぜ親日であるかなど知らないことも多く大変興味深い内容であった。パワーポイントを使った講義で、内容も良くまとめられており、大変分かりやすいと好評であった。

生活に役立つ講座 ～家事効率が上がる片づけ術～

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 普段の生活の中で、役立ちそうなことを学ぶ。
- 期 間 令和３年３月５日（金）
- 時 間 午前１０時～正午（計２時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の方・２４人
- 参 加 者 ２１人
- 講 師 整理収納アドバイザー 山口 香央里
- 事 業 内 容 無意識のクセに沿った「利き脳片づけ術」等
- ま と め

この講座は、本来ならば前年度に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により一年遅れで開催された。

片づけに興味がある方が多いようで、多数応募いただいたが国の緊急事態宣言により２４人しか募集できず残念だった。

「家事効率が上がる片づけ術」というタイトルだが、最終的に「どう暮らしていきたいか」それに向けて片づけやすく散らかりにくい順番を決めて、進めるのが重要であるという。その順番は、①目標設定（考える）、②整理（分ける）、③定位置（収める）、④片づける、というもので、①～③は土台とし、④は習慣づけるという４つの工程である。

整理については、小さい場所（引出し一段等）から始めていき、広い場所に全部出して分別していく。手放しにくいものは後回しにし、使ったら必ず戻す時間を決めるのがポイントで、直ぐに戻さなくても夕飯後や入浴後等、具体的に決め、習慣づけることが重要であるという。

また、人には利き脳という行動パターンが４種類あり、これを解っていると相手がどのようにすれば片づけやすくなるのかを理解できるので、家族等、利き脳を調べて片づけ方をアドバイスするのも良いかもしれない。ただ、一番は相手ではなく自分の言動を変えること（手本を示す・接し方・期待値を下げる等）が大事であるという。なお、利き脳は必ずしも当てはまる訳ではないので参考にしてほしいとのことである。



人権学習

〈畑中公民館〉

○開設の趣旨 日常生活における差別や偏見について考え、意識を持っていくことを目的とする。

○期 間 令和２年１１月２１日（土）

○対象・定員 公民館サークルの代表・５０人

○参加者 ３４人

○事業内容 利用者懇談会時に人権啓発冊子を配布し、自己啓発意識を高めてもらう。

○まとめ

例年、利用者懇談会の会議終了後に人権啓発のＤＶＤを視聴してもらっていたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場の変更によりＤＶＤ視聴は行えなかった。

人権啓発冊子「人権ア・ラ・カルト」の配布のみの啓発活動となった。

シニア向けタブレット入門講座

〈 畑 中 公 民 館 〉

- 開 設 の 趣 旨 高齢者を対象にタブレットの基本操作を学ぶ。
- 期 問 令和３年３月１６日（火）
- 時 間 午後１時３０分～午後３時３０分 （計２時間）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住又は在勤の概ね７０才までの方・１５人
- 参 加 者 １５人
- 講 師 ＫＤＤＩケータイ教室認定講師
- 事 業 内 容 タブレットについての基本操作、インターネット、アプリの活用方法及び安全対策について学ぶ。

○ま と め

ＫＤＤＩ株式会社が社会貢献活動として行っているシニア向け安心・安全教室から講師を派遣してもらい実施した。

この講座は昨年も開催しているが、コロナ禍で、家で過ごす人が増えたせいか、今回の申込み件数が大変多かった。

前半は、電源を入れるところから入り、地図検索、ゲームを通したタップ練習をメインに行った。指のどの部分で操作するのか、どれくらいの強さで押すのかなど、細かいところまで説明してくれた。

後半は、情報を得るための検索方法を習った。ＹｏｕＴｕｂｅ検索で音楽を聴いたり、ＨＰやラジオアプリで災害情報を知る方法などを知ることができた。次にカメラの操作に入り、自撮りや連写のやり方を習い、受講生は楽しそうに撮影をしていた。

今回は、国の緊急事態宣言により人数を減らしての開催だったが、次回はたくさんの方に参加してもらいたいと思う。

